

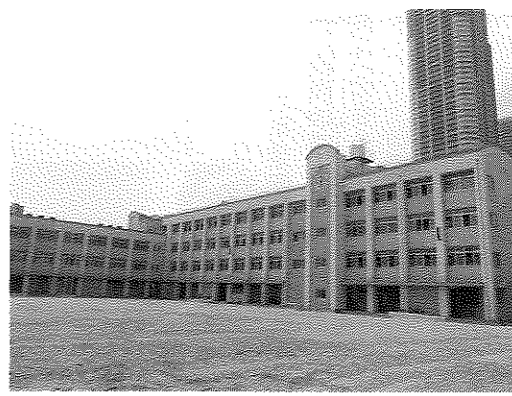
教諭 岡野 功

しまなみ海道修学旅行・大三島クラス分宿

—union powerで絆を深めよう—

●学校紹介

本校は、大阪市の中西部港区にあり、昭和22(1947)年大阪市立港第一中学校として開校し、昭和24年に市岡中学校と校名を変更して今年で65年を迎える伝統のある学校である。また、大阪市教育委員会から「帰国した子どもの教育センター校(一般的には日本語教室とよばれている)」の指定を受けており、帰国・来日した生徒も多く通級している。区内には日本一低い山だとされる天保山(現在は第2位とも)や、そのエリア内にある海遊館など観光スポットも点在している。平成26(2014)年度の全校生徒数は、428名(3年4学級、2年4学級、1年4学級、特別支援学級4学級)、教職員数は39名で、大阪市立の中学校では中規模の学校である。部活動は、運動系が8クラブ、文化系が9クラブあり、運動系では大阪市の総合体育大会においてソフトボール部や野球部がベスト4に入り、文化系では伝統のある吹奏楽部が毎年金賞を受けたり、放送部がコンテストで全国大会に出場するなど全体的に活発に活動している。



市岡中学校校舎

校訓である「明るく、強く、正しく」の精神のもと、生徒たちは毎日の様々な活動を通して良い経験をたくさん積み重ね、中学生としての成長と、さらには社会性を身につけた立派な社会人として活躍できるよう日々取り組んでいる。

- 【教育目標】
- ① 「あいさつ」のできる学校づくり
 - ② 「きれい」な学校づくり
 - ③ 「学力向上」をめざす学校づくり

実施要項

- 旅行先 しまなみ海道・四国方面
- 時期 平成26年6月3日(火)～5日(木) 2泊3日
- 実施学年 第3学年 4学級128名 引率教員数11名
- 日程概要

1日目：6月3日(火) 学校→阪神高速→中国自動車道・山陽自動車道本郷IC→忠海港→大久野島(平和学習)→大三島(クラス分宿)

2日目：6月4日(水) 宿舎→しまなみ各種体験活動・マリンスポーツ《カヌー&バナナボート》、イチゴ狩りまたはレモン狩り、観潮船、橋上ウォーク(荒天中止にて伯方の塩工場見学に変更)
※クラスにより行程順は違う→→→宿舎

3日目：6月5日(木) 宿舎→高松自動車道→善通寺IC→琴平(うどんづくりと散策)→高松自動車道・神戸淡路鳴門自動車道・阪神高速→学校

1 旅行先決定までに

今回の修学旅行を企画する2年前は、本校における修学旅行実施にあたっての検討学年にあたり、従前本校で実施されてきた岐阜・長野方面への総括がおこなわれた。学年での検討段階で方面変更の必要なしという意見もあったが、この方面では自然体験だけが主たる目的となっていないという意見もあり、岐阜・長野方面と同じ体験プログラムができていないかということ、様々な資料を集めて調査した。

2 目的

今回の修学旅行での目的は、大きく3つあった。

- ① 集団の中でお互いに協力しあい、自主的な活動ができる
 - ② 修学旅行を通して正しい判断ができ、正しい行動をする
 - ③ 自然に対する興味・関心を持つ姿勢を育む
- であり、それらを具現化するために以下の活動や学習に取り組んだ。

●重点を置いた活動

「お互いに協力しあい、自主的な活動ができること」

3 修学旅行委員の活動

まず1つめの目的であり、最も重点を置いた活動「集団の中でお互いに協力しあい、自主的な活動ができる」であるが、今年度に入り、まず学年集会において修学旅行委員の募集を行った。タイトルにもあるようにクラス分宿を計画し、クラスを中心とした活動をするためにも生徒による修学旅行委員の活動に私たちは大きな期待を寄せた。各クラス2〜4名の募集であったが多数の希望者があった。強い熱意を持った生徒たちが多かったが、部活動や生徒会活動等との兼ね合いで、残念ながら絞り込みの末、総勢17名(全員女子)となった。修学旅行委員決定の後、さっそく仕事の分担をおこない、全体のルート地図作製に始まり、クラス単位で活動する際の



修学旅行委員会の活動風景

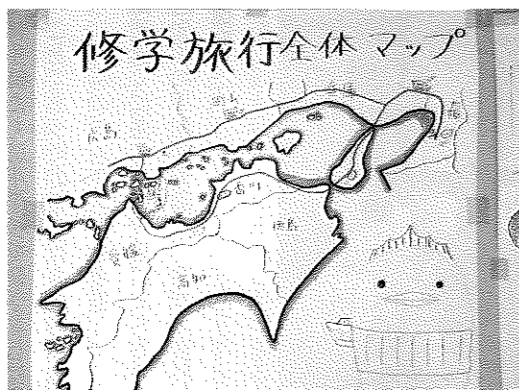
メニューづくり、おやつOKタイムなどのルールづくり、クラスレクレーションの準備や練習を、みんなの先頭に立って実施した。

修学旅行委員の活動(全6回)

第1回 メンバーの顔合わせと役割分担作成

修学旅行通信・行程全体マップ・しまなみ海道マップ・しまなみ海道説明書き・大久野島について(通信以外は壁新聞形式)

学級活動の時間での説明および話し合い項目の確認



修学旅行壁新聞の一部

- ①全行程の説明
 - ②1日目夜から2日目夕方までのクラス別行動原案の作成
 - ③2日目レクレーションの形態
 - ④1泊目(クラス分宿時)の服装について
- 第2回 1日目夜に宿舎周辺散策を追加する提案

(これは教師側からサプライズを用意するため)

第3回 修学旅行しおり表紙絵の決定(募集済のものから選定)、クラススローガンの提案

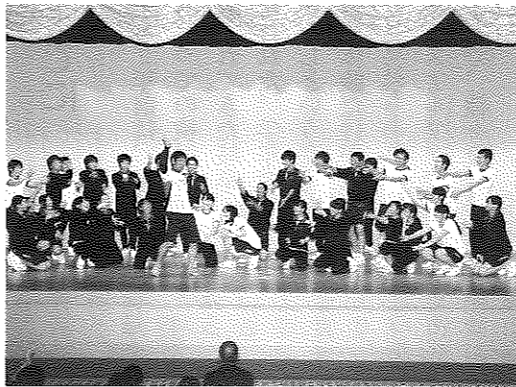
第4回 クラススローガンの決定と学年スローガンの決定

学年スローガンは、『Let's enjoy!』(ハッピーだね!! 俺たちのunion power!)と決定した。

また、2日日夜の全体レクレーションは、クラス別に何か出し物をするということになった。

第5回 各クラス分宿での服装の確認(どのクラスもルールを守った上での意思確認)各場面での司会や挨拶担当の決定
第6回 2日日夜の全体レクレーションでの役割とタイムテーブルの確認

修学旅行委員は、学級活動の時間に修学旅行スローガンや各クラスのレクレーションの出し物などの話し合いで前に立って議題をすすめた。生徒が先頭に立つとのおずと修学旅行にむけてのクラスの団結が深まり、出発1週間前にもなると、放課後、4クラスとも教



クラスレクレーション風景

師に全く先導されることなく自発的に残り、2日日夜に行われる全体レクレーションのクラス出し物の練習があらゆる心で熱心に行われた。

生徒感想文より

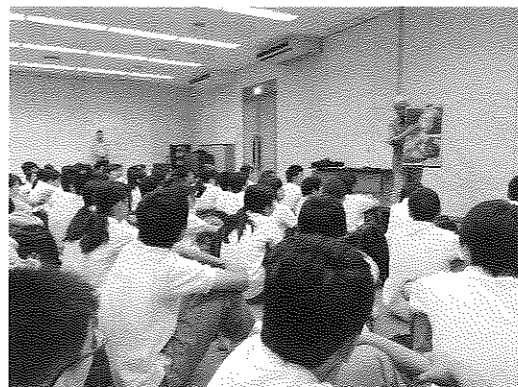
「私は修学旅行委員に入っていたので4月の家庭訪問期間から修学旅行に向けていっぱい活動してきました。準備の期間はいっぱいあったのに修学旅行の3日間はすごく短く感じました。修学旅行委員で学年全体レクレーション用に事前に準備した○×クイズが行程の変更で時間が遅くなってしまい、できなかったのがすごく残念でした。みんながボードを作って問題を考えて、どうしたら盛り上がるかとかいろいろ考えていたので、もうできなくなるかと思っただけ、学校でリベンジできることになってよかったです。修学旅行委員になってよかったですと本当に思いました。」

「予定は少し変わったりはしたけど、それよりもみんな楽しくできたという気持ちで勝ったので、みんなのユニオンパワーをすごく感じました。」

4 大久野島での平和学習

2つめの「修学旅行を通して正しい判断ができ、正しい行動をする」は、太平洋戦争における「地図から消された島」大久野島での

平和学習である。本校が人権教育に取り組み中、この学年においては毎年夏休みの登校日に太平洋戦争にまつわる視聴覚教材を用い、平和についての学習を深めている。今回、広島市にある原爆資料館に立ち寄り、というプランもあったが、すでに生徒たちは小学校で修学旅行に行ったことだったので、行き先の重複を避けさらに行程のスムーズさを考慮して、しまなみ海道近くにある大久野島に立ち寄り、山内正之先生の平和学習講話、毒ガス資料館見学を選択した。



毒ガスについての講話(平和学習)

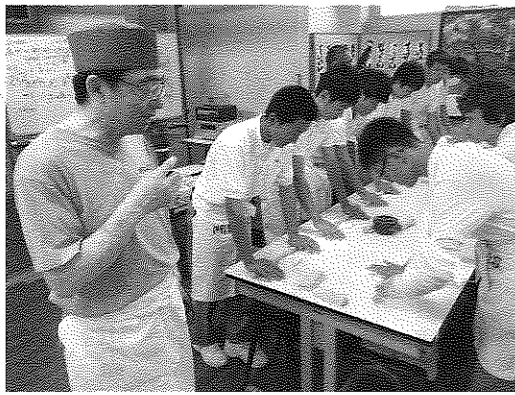
事前学習としては、以前にテレビで放映された大久野島毒ガス関係の番組を視聴し、さらに資料を使つての学習を行つて、当日の講話による平和学習、毒ガス資料館見学学習に備えた。

生徒感想文より

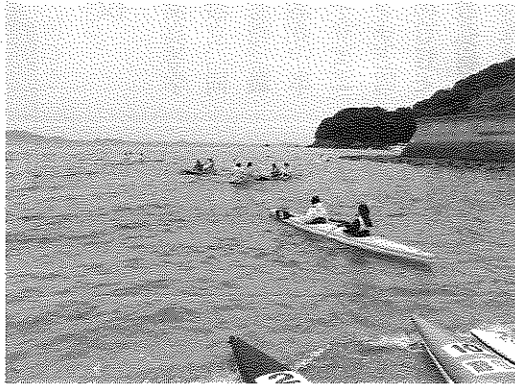
「1日目は、大久野島に行つて毒ガスについて学びました。山内先生のお話を聞き、毒ガスをつくった人たちは今も病気に苦しんでいることを初めて知りました。また、毒ガス資料館では当時実際に使われていたマスクがあり、関係する資料などを読むともう二度と戦争などしてはいけなうと思えました。そのことについて夜寝る前に少し友達と話したのも思い出の一つです。」

5 体験学習

3つめの「自然に対する興味・関心を持つ姿勢を育む」であるが、特に「食」に対する興味・関心を持たせ、修学旅行での果物収穫体験と琴平におけるうどんづくりにつなげられるよう、2年時の校外学習では食品づくり体験(伊賀の里モクモク手づくりファーム)



琴平でのうどん作り体験



マリンスポーツ体験

事後のアンケートの結果、修学旅行全体を通しては「大変楽しかった」、「楽しかった」が97%に達し、よい修学旅行という結果になったが、天候がよくなかったことで、やはりマリンスポーツの感想では「楽しかった」が他と比べて少なかった。

6 事後アンケート

事後のアンケートの結果、修学旅行全体を通しては「大変楽しかった」、「楽しかった」が97%に達し、よい修学旅行という結果になったが、天候がよくなかったことで、やはりマリンスポーツの感想では「楽しかった」が他と比べて少なかった。

生徒感想文より

「3日目はうどんづくりをしました。曲にあわせて生地をこねたり、踏んだり、のばして切ったりして麺の形になるまでしたので、すごく楽しかったです。つくったうどんを持ち帰り、家族と食べたので「おいしー」と言ってくれたのでとてもうれしかったです。」

7 おわりに

本稿最初の「旅行先決定までに」の項でも書かせてもらったが、体験活動にしばって考えると、大阪市内の中学校におけるここ15年ほどの修学旅行先の一つに「信州方面へ行き自然体験を満喫する」というものがあると思うが、大阪からは比較的距離にあるしまなみ海道・四国方面でも十分に同じような活動をする事ができ、それに加えてのプラスアルファ活動も取り入れることができる。

基本的には雨プログラムを設定する必要はなかったが、今回は事前の予想以上に天候の具合がよくなく、橋上ウォーキングの行程を変更せざるを得なかったことは心残りである。2年前に生徒の自主的な活動を促す取り組みを中心とした修学旅行を企画したが、平和学習をはじめまだまだ生徒へ啓発する余地は残されている。移動時間が短縮され、各種活動時間がより多くとれることもあり、今後しまなみ海道・四国方面が修学旅行先としてどのように発展させることができるのかをさらに考察していきたいと思う。